

# さんむのふるさと散歩

NO.13

## むかしの総社「五所神社」

**蓮** 沼地区に所在する五所神社は、承安2年(一一七一)に創建された古社で永仁年間(一二九三)当時の領主遠山氏の寄進による懸仏をはじめ、源頼朝・水戸黄門で知られています水戸光圀その他の領主や地頭の崇高があつく、多数の寄進があったことが古文書から見えます。

特に上総国山辺荘の総社と称され、享保2年(一七一七)神祇官から正一位の僧位を賜り、当初は五所神社を五所大権現と称されていましたが、明治元年(一八六八)に五所神社と改め、大正11年(一九二二)には郷の神社として、また昭和29年3月には千葉県有形文化財(建造物)第一号に本殿が指定されました。

**祭神**は天照大神で相殿として誉田別命・表筒雄命・天児屋根命・素登織姫命が祀られています。まさに五つの祭神が祀られており、名の通りですね。

**本殿**は、慶安2年(一六四九)多くの氏子の寄進によって造営されました。装飾は桃山様式で金箔・黒漆・胡粉(貝殻を焼き砕いて粉末にしたもの)の白・赤・緑など洗練された彩色で目を奪われます。本殿の大きさは正面五間、側面二間の榺葺入母屋造りで、三間×二間が一般的な造りですので、極めて希な構造が特徴とされ、類例が少ない建造物ですので、是非、機会を設けて見学されたいかがでしょうか。



本殿側面



本殿正面